

令和 7 年度
横浜市立高等学校
及び
併設型中学校
学校関係者評価書

対象校：横浜市立戸塚高等学校

調査全体の日程

調査日： 令和7年10月29日 ～11月25日

調査対象校：横浜市立戸塚高等学校

調査チーム：学校運営協議会

1 第4期横浜市教育振興基本計画の推進状況

□総合的な探究の時間の取組

○生徒による学校評価の結果によると 85.6%の生徒からは、目標を実現できているという評価を得た。しかし、14.4%の生徒からは実現できていないという評価であった。一つの教科でありながら 14.4%の生徒からそのような課題を提示されている結果を受け止め、令和7年度から取り組んでいる戸塚高校独自の総合的な探究の時間のさらなる改善に取り組んでいかなければならない。

□魅力ある学びの創出に向けた取組

○令和7年度に全ホームルーム教室にプロジェクターの設置が完了し、教職員の授業改善への取組も加速した結果、校内の研修・研究への評価も上昇した。
○生徒の主体的な活動に対する支援も継続していることで、生徒の評価も高水準を保っている。
○地域からの評価として、地域人材の活用に課題もみられるため、高大連携と合わせて、地域との連携事業も模索しながら、生徒の主体的な学習の支援を推進していきたい。

□多様化する生徒への支援

○生徒による学校評価1「希望する進路に進むために必要な科目や興味・関心を満たす科目が設置されているか。」について、「A十分に実現」が55.8→39.3%、「Bおおむね実現」が39.0→55.1%となり、肯定的な回答の割合は変わらないが、「十分に実現」の割合が減少傾向にあることから、科目設置や選択方法について検討の余地がある。

2 教育活動の状況

□教科指導の状況について

- すべての教科・科目において、グループワークやペアワークなど指導内容によって、授業形態を柔軟に変化させて「主体的・対話的で深い学び」の実践に取り組んでいる。研究授業を中心に、ICTを積極的に活用した授業実践を教科・科目で共有している。

□生徒指導・教育相談等の状況について

- 基本的な生活習慣の確立においては各ホームルーム、年次で登下校指導を続けている。ただし地域の方による学校評価4「生徒は登下校の際のマナーが身につけている」においては前年比-4.0%であるが、地域の方による学校評価5「生徒は近隣に迷惑がかからないような行動をこころがけている」においては+4.0%と令和6年度より上昇傾向にあり、今回の結果を今後の指導に活かしていきたい。
- 生徒による学校評価2「あなたはホームルーム（学級）で良好な人間関係を築くことができている」においては96.2%の生徒が肯定的な回答であった。学習環境としても満足のいく環境が保たれていると感じる。
- 規範意識等の適切な指導については、保護者による学校評価5「生活習慣や規範意識を身に付けるための適切な指導が行われている」において前年比+8.5%、教職員による学校評価12「生徒の生活習慣の確立や規範意識の形成に向けて、適切な指導を行うことができている」において前年比+7.6%と、ともに令和6年度を上回っており、一定の成果は出ていると思われる。
- 心の悩みを抱える生徒が急増しており、スクールカウンセラーの利用も増えている。また外部機関とも連携する案件も増加傾向にある。

□進路指導の状況について

- 教職員による学校評価13「生徒の希望する進路の実現に向けて、学校全体として適切に取り組んでいる」において、88.8%が肯定的に回答した。3年間のガイダンス計画や生徒の学習状況などが、各年次の指導や研修会を通して、教職員間でほぼ共有されていると考えられる。
- 生徒による学校評価6「進路に向けての明確な目標を持っている」において、70.1%が明確な目標を持っていると回答している。さらに生徒による学校評価7「進路説明会等で進路に関する情報を理解することができた」において87.1%が情報を理解していると回答していることから、各年次に応じた指導を継続的に行っている効果が出ている。大学進学のための情報提供だけでなく、職業別や分野別のガイダンスを定期的に行っている効果もある。
- 保護者による学校評価7「進路希望に応じた適切な指導が行われている」において90.3%が肯定的な回答をしている。保護者会や面談等を通じて定期的に情報を公開している効果が出てきている。今後も、スタディサポートや模擬試験のデータをもとに現状に即した情報の公開をしていきたい。

□特別活動・部活動の状況について

- 行事は生徒が主体的に企画運営をできたので目標は達成できたと言える。部活動は年々加入率が下がっているため、部活動のあり方から見直しをしていきたい。

3 学校経営の状況

□学校経理・施設・設備・情報管理の状況について

- 公金、準公金については、研修を行い引き続き適正な管理に努めた。また、PTAによる会計監査では問題となる大きな指摘はなかった。
- 校内の施設については、女子トイレの全面改修を終えた。また、消防点検で指摘のあった非常灯及び避難誘導灯の改修や、体育館及びアリーナ棟体育室の照明更新を行い、教育環境の整備に努めた。
- 個人情報の管理についても研修を実施し取扱いについて再確認を行い、適正な管理に努めた。

□学校組織の運営、職員研修の状況について

- 教職員による学校評価全体について、肯定的な回答が上昇傾向にあり、教職員一体となった組織運営が醸成されている。
- 自発的な研究授業の実施なども増え、教職員の自ら学び研修研鑽する姿勢や評価も上昇している。
- 各分掌のリーダーが責任をもって学校運営に参画し、自走型の組織改編が進んでいる。必要な時には管理職とも連携を図り、教職員の負担軽減につながる、持続可能な形での組織改編を進めていきたい。

□保護者・地域との連携の状況について

- 保護者は学校の教育活動を概ね好意的に評価している。方針や課題を保護者会や面談、通信、PTA活動で丁寧に共有し、連絡ツール「すぐーる」で担任に直接相談できる体制が、安心感と信頼を高めていることが理由と考えられる。
- 地域連携に関しては概ね高評価を受けている。生徒の地域行事・防犯清掃活動や学校運営協議会との交流が評価されたものと思われる。

4 いじめへの対応に関する項目

□いじめへの対応について

- 概ね達成できていると評価できる。いじめ防止対策委員会の会議報告を全教職員と共有している。年3回のアンケートを実施し、気になる記載のあった生徒については教育相談を実施し生徒理解に努めた。
- 生徒代表との意見交換会を実施し、より良い支援体制について検討した。

5 学校関係者評価 提言（380字以内）

- キャリア教育・進路指導において、職業が多彩を極め、第4次産業によって社会生活が変わってきていることを踏まえ、改めて生徒が将来の職業選択を考え、そのためにはどのような学問をしていくのかという指導をしていくべきではないか。また、その教育は「エシカル」（倫理的・道徳的・人間本来の良心に基づく社会的ルール）であってほしい。もはや商業的なSDG'sではない。高校生として日本人として安心して暮らせる社会情勢を作っていくことを考えられるようにする必要がある。
- 学校関係者評価委員会のアンケート結果については、部分的に報告されても把握しにくい。戸塚高校としての総括、それを受けての報告であってほしい。また、棒グラフは見やすいが、項目ごとにもっとわかりやすく提示してほしい。